

催事案内

平成15年度

矢巾町観光まつり

宮沢賢治が愛した南昌山麓探求フェスタ

と き:平成15年10月13日

ところ:矢巾温泉郷地内

矢巾町ゲートボール場

南昌太鼓保存会オープニング	10:00	~	10:15
開会宣言(会長)	10:15	~	10:17
矢巾吟詠会	10:17	~	10:30
白沢神楽保存会	10:30	~	10:45
南昌わんぱく太鼓	10:45	~	11:00
キャラクターショー(1回目)	11:00	~	11:30
不来方高校音楽部	11:30	~	11:45
もちまき(1回目)	11:45	~	12:00
田園室内合奏団	12:00	~	12:15
室岡獅子踊保存会	12:15	~	12:30
宮沢賢治を語る会	12:30	~	13:00
チビッコ民謡歌謡ショー	13:00	~	13:40
矢巾町民劇場(演劇)	13:40	~	14:00
矢巾コール	14:00	~	14:15
白沢さんさ踊保存会ちびっこの部	14:15	~	14:30
キャラクターショー(2回目)	14:30	~	15:00
コールパープル	15:00	~	15:10
南矢幅さんさ踊保存会	15:10	~	15:25
煙山田植踊保存会	15:25	~	15:40
高田さんさ踊保存会	15:40	~	15:55
矢巾温泉音頭保存会	15:55	~	16:00
もちまき(2回目)	16:00	~	

宮沢賢治にちなんだ各種ゲーム大会 (14:30~15:00)
宮沢賢治杯争奪企業対抗レクリエーション大会(10:30~11:30)
熱気球体験搭乗 (10:30~12:30)
チャグチャグ馬コ行進及び繫留 (10:00~13:00)
イワナのつかみ取り (13:30~14:30)

終日 10:00~16:00

保育園児による宮沢賢治童話の世界図画展
宮沢賢治が遊んだ南昌山麓スタンプラリー
夢の銀河鉄道の旅ミニSL列車の運行
フリーマーケット・茶屋っこ長屋の出店

宮沢賢治が愛した南昌山麓探求フェスタ開催にあたって

宮沢賢治は、盛岡中学校時代、矢巾の親友藤原健次郎と南昌山を訪ね、二人は南昌山に何度も登り、また、「水晶」や「のろぎ石」などを拾って遊び、そして健次郎の家に泊まっていた。健次郎は、盛岡中学の野球選手で四番バッターとして活躍したが、3年生の夏、秋田遠征から帰ったあと、腸チフスに罹り急逝した。賢治は、大変なショックを受け、健次郎亡き後も健次郎を偲び、当地を度々訪れた。その後、南昌山の歴史や伝説に興味をもった賢治は、盛岡高等農林時代も何度となく南昌山周辺に足を運び、短歌や詩、童話など多くの作品を遺している。

また、賢治が花巻農学校教師時代に、隣接する花巻女学校の音楽の教師であった、本町出身の藤原嘉藤治とも深交があった。嘉藤治は岩手師範在学中から詩を書いており、詩を通して賢治と交友が始まるが、音楽に興味をもっていた賢治は、嘉藤治に作曲や楽器演奏を学び、特に嘉藤治は賢治の音楽に影響を与えたことで有名である。

平成6年のこと、町ではこの事実を確認し、「水辺の里」造成事業に賢治の歌碑の建立計画を織り込み、短歌二首の歌碑を建立し、文化的、観光的資源として宣伝に努めてきた。

一方、平成12年1月には、町内の同士によって「矢巾町宮沢賢治を語る会」が設立され、会員によって更に賢治と矢巾の関連を調査研究が進められ今日に到った。幸いにも、平成13年7月賢治が健次郎の家に泊まった時に忘れて行ったと思われる、賢治の当時のノートが発見され、マスコミに大きく報道された。このことにより、二人の交友の深さが更に証拠づけられた。

また、賢治が大正6年ごろ描いた短歌を添えた南昌山の絵が発見され、健次郎亡き後も健次郎を追慕し、南昌山を愛して訪れたことが証明され、賢治と健次郎、そして南昌山との関わりが確固たるものになってきた。

最近になって、賢治の童話「銀河鉄道の夜」の主人公の一人、カンパネラのモデルは、藤原健次郎ではないか、そして、この物語の舞台は南昌山周辺ではないかと思われることから、矢巾町賢治を語る会代表が、去る9月23日の全国宮沢賢治学会で研究発表をした。

矢巾町では、平成13年度より3ヵ年計画で「宮沢賢治が愛した南昌山麓探求事業」を企画し、偉大な作家宮沢賢治と矢巾町との関わりを、文化と観光資源開発のため、新たな事業として展開してきた。

本年度は最終年度に当り、事業の集大成として「観光まつり」と「宮沢賢治が愛した南昌山麓探求事業」を合体させ、イベントの更なる拡大を図ったものである。

宮沢賢治について（略歴）



賢治は、「雨二モ負ケズ風二モ負ケズ・・・」の詩や「風の又三郎」、「銀河鉄道の夜」などの童話で広く知られ、郷土岩手を「イーハトーブ」（ドリームランド）と呼び愛した。

賢治は、37年の短い生涯の中で、短歌約千首、詩約八百篇、童話約百篇そして農民芸術概論など数多くの作品を発表し、歌人、詩人、童話作家、作曲家、科学者、宗教家、農業指導者等々いろいろな顔もち、しかも総ての作品が高い評価を受ける世界的作家として有名である。

賢治は、盛岡中学時代の親友、矢巾の藤原健次郎と南昌山を訪ねて

以来、度々南昌山に足を運び、二人で周辺を^{ばっしょう}跋渉し短歌、詩、童話等の作品を遺している。

また、花巻農学校教師時代からの親友、藤原嘉藤治も矢巾の人であり、この矢巾の二人は、賢治の人生に多大な影響を与えた。略歴は次の通りである。

- * 明治29.8.27 花巻市に父政次郎(質・古着商)、母イチの長男として出生。
- * 明治42.4 盛岡中学に入学し、寄宿舎で同室だった矢巾の藤原健次郎と親友になり、二人で南昌山を訪ね、「水晶」や「のろぎ石」を拾い、南昌山に魅せられた。
- * 大正2.4 寄宿舎の舎監排斥運動に参画し、寄宿舎を追われ北山の寺院に下宿した。願教寺で開かれた法話講習会で島地大等の法話を聞き、日蓮宗に感動する。
- * 大正3.3 盛岡中学を卒業。間もなく岩手病院に、肥厚性鼻炎

の手術のため入院。親切な看護婦、高橋ミネに恋心を燃やしたが実らなかった。

- * 大正 4 . 2 退院後家業に専念したが父と衝突。父は、賢治の家業後継者を断念し進学を認めた。受験勉強のため北山教浄寺に下宿した。
- * 大正 4 . 4 盛岡高等農林(農芸化学)に主席で入学し級長をつとめる。学友と文学の会「アザレヤ会」を結成し文学活動を始める。健次郎を偲び、南昌山を訪ねる。
- * 大正 7 . 3 高等農林を卒業し、恩師関豊太先生の推薦で同校地質学部研究生となり、高等農林実験指導補助を嘱託されるが、8月指導補助を辞す。
- * 大正 1 0 . 1 2 稗貫郡立稗貫農学校(後の花巻農学校)の教諭となる。隣接する花巻高等女学校の音楽教師、矢巾の**藤原嘉藤治**と親しくなり、音楽に興味を持ち、セロを弾き、「星めぐりの歌」「種山ヶ原」などを作曲した。詩集「春と修羅」童話集「注文の多い料理店」各千部を自費出版した。
- * 大正 1 5 . 3 花巻農学校を依願退職し独居自炊生活に入る。羅須地人協会を設立し卒業生や農民の指導にあたる。農家のために肥料設計書二千余枚を作成する。
- * 昭和 3 . 8 稲作の不良を心配して風雨の中を奔走、過労のため結核に罹り療養生活に入る。この時、**ノートに中学時代の健次郎との思い出**などを記録した。
- * 昭和 5 . 9 病気が回復したため、土壌改良剤「炭酸石灰」を製造する東北碎石工場の技師として勤務した。社長の命により技師のほかに営業販売も担当した。
- * 昭和 6 . 9 炭酸石灰などの見本を持って上京中に結核が再発し、死を予感して「雨ニモ負ケズ」をメモした。花巻に戻り療養生活に入ると共に創作活動をつづけた。
- * 昭和 8 . 9 . 2 1 午前 1 1 時 3 0 分咯血して容態急変したが意識は明瞭で「国訳妙法蓮華經」一千部を翻刻して知己に頒布するようにと遺言し永眠、満 3 7 歳であった。

藤原健次郎について(概略)



健次郎は、明治 2 7 年 9 月 2 日、当時の不動村白沢(現矢巾町)に、父栄次郎、母トキの四男として出生した。(現世帯主 藤原博雄)

明治 3 4 年 4 月、不動村白沢小学校に入学、不動尋常高等小学校に編入、明治 4 1 年 3 月、高等科 3 年を終了し(当時は尋常科高等科各 4 年)盛岡中学を受験し合格した。通学困難のため寄宿舎に入った。

宮沢賢治は、健次郎より 1 年遅れて明治 4 2 年 4 月盛岡中学に入学、偶然寄宿舎の 1 2 号室で同室となり、これが**二人の出会い**とな

った。

当時の寄宿舎はランプ生活であり、1 年生の賢治は部屋のランプ掃除が担当であった。

2 年生の健次郎は賢治にランプ掃除のコツを教えたことから兄弟のように親しくなった。休みになると、賢治は健次郎の家に泊まりに来るようになり、**二人で南昌山に登ったり**、周辺で「水晶」や「のろぎ石」を拾って遊んだ。このことを賢治は後のノートに、次の様に記録している。

「寄宿舎の夕 藤原 ランプ 塩」

(「塩」とは、ランプのホヤに塩をつけて磨いたことを意味している)

「藤原健次郎 南昌山 家・藤原健次郎 南昌山 水晶・藤原健次郎 南昌山 頂上」

(二人で南昌山に登ったり、周辺で「水晶」や「のろぎ石」を拾っては健次郎の家に泊まった)

また、次の様な短歌を遺している。

のろぎ山 のろぎをとりに行かずやと

またもその子にさそわれにけり

(「その子に」とは健次郎である)

のろぎ山 のろぎをとればいただきに

黒雲を追うその風ぬるし

(賢治は、「南昌山が曇れば雨が降る」という伝説を知っていた)

健次郎は、盛岡中学の野球部の正選手で、しかも四番バッターとして大活躍をした選手である。明治43年8月の夏休みに(健次郎が3年生の時)、野球部は練習試合のために秋田県大館中学校に遠征した。(明治43年10月12日付けの盛岡中学校校友会誌第16号に詳しく掲載)

この遠征から帰って間もなく、健次郎は腸チフスに罹り、入院治療の甲斐もなく、9月29日若干16才で亡くなった。

賢治は、健次郎の死に大きなショックをうけ、後に記録したノートに、次のようにメモ記録している。

「藤原健次郎死ス 野球 大館 チフス 藤原健次郎死ス」

(賢治は健次郎の死が如何に悔しかったことか)

賢治は、健次郎の死後も健次郎を偲び何度も南昌山を訪れ、沢山の短歌や詩、童話を遺しており、二人が遊んだと思われる「水辺の里」の一角には賢治の歌碑が建立されている。また、賢治は健次郎を回想し次のような童話三部作を遺している。

「鳥をとるやなぎ」 「谷」 「二人の役人」

健次郎の生家には、賢治が健次郎の家に泊まった時に書かれた図画やノート、教科書などが遺されており、また、昭和52年には賢治から健次郎に宛てた手紙が発見され、更に昨年(2019)の7月には、賢治の中学1年生の時の**自筆ノートが発見**されマスコミに大きく報道された。

藤原嘉藤治について(概略)



嘉藤治は、当時の紫波郡水分村(現紫波町水分)小屋敷に、父嘉四郎、母マツの五男として出生した。生まれて間もなく、当時の不動村白沢(現矢巾町)の子供の無い菅原豊次郎、妻ソノ夫婦のもとに養子として迎えられ育てられた。その後、豊次郎夫婦には三人の子供が生まれたが、嘉藤治は実子同様可愛がられて育った。

明治35年4月白沢小学校に入学、不動尋常高等小学校に編入、明治43年3月同校高等科を卒業したが、向学心に燃え日詰(現紫波町)にある紫波高等小学校高等科に通った。

明治44年4月には、岩手師範学校を受験し、第二種正教員補習科に合格した。音楽が好きで、岩手師範の優秀な音楽の三浦先生から指導を受けた。特にピアノを習うために盛岡幼稚園のタッピング夫人のピアノを借りて一生懸命練習した。大正3年・4年には師範学校その他の音楽会に出場し**ピアノ、ヴァイオリン、チェロの演奏、独唱や合唱**等で活躍した。

また、師範の本科に入った頃から作詩をするようになり、郷土の歌誌「朔風」その他に詩を11篇発表、岩手民報には随筆「**病者の感想**」「**心の糧記**」などを発表した。

大正5年4月岩手師範を卒業、初任校は気仙郡の広田小学校であった。その後盛岡の仙北小学校、城南小学校に転任した。

大正10年9月、音楽の才能を認められ、花巻高等女学校の音楽の先生に迎えられた。**ここで賢治と出会う**。賢治は、同じ年の12月隣接する稗貫農学校(後の県立花巻農学校)の教師として赴

任してきた。賢治は、花巻高等女学校に詩を書く音楽教師、嘉藤治が着任したことを知り、自分の方から会いに出向いた。賢治は音楽にも興味をもち、共に詩を書く二人は意気投合し、以来賢治との交流が続いた。

嘉藤治は、**賢治に音楽鑑賞や作曲について指導**した。やがて賢治は、学校の応援歌や自分の詩に作曲するようにもなった。

二人は、学校の授業でも**交換教授**を行う様になり、賢治は女学校でドイツ語を、嘉藤治は農学校で音楽を教えあった。

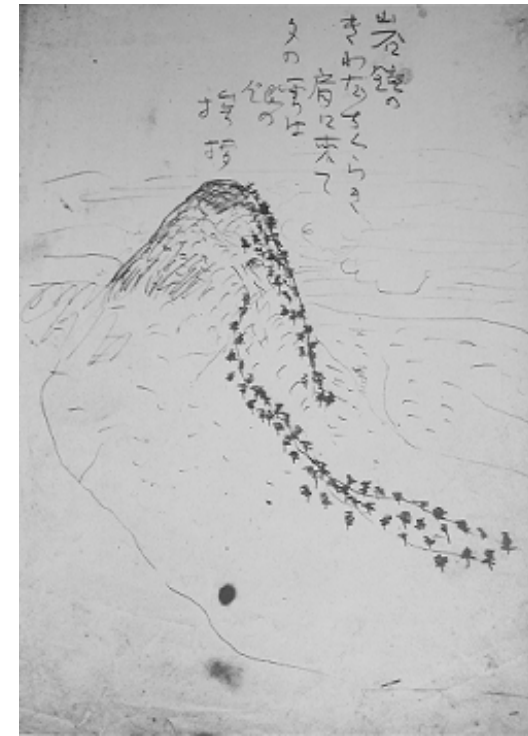
大正15年1月に花巻農学校で開催された、岩手国民高等学校(短期幹部養成)では共に県から推薦を受け、嘉藤治は音楽概論、賢治は農民芸術概論を講義した。

昭和3年3月嘉藤治が、キコさんと結婚するに当たり、**賢治が仲人役**を務め、賢治はキコさんの実家、青森の津軽まで出向き、親の了解を得るなど、挙式一切を仕切った。なお、嘉藤治の長女典子、長男嘉秋の**名付け親**でもある。

賢治が農学校の教師を辞め、羅須地人協会を設立してからも二人の交友が続いた。昭和7年9月嘉藤治が盛岡洋楽協会第一回公演に、セロ奏者としてNHKで放送する際に、賢治が自分の新品のセロを嘉藤治に譲った話は有名である。

昭和10年1月花巻高等女学校を退職し、賢治全集の編纂に参加するため上京。富士小学校、大日本青年団本部に勤務しつつ「**宮沢賢治全集**」の編纂に加わった。

昭和20年終戦のため不動白沢の菅原家に戻り、東根山麓開拓に入植、推されて開拓組合長、開拓連役員を務め、勲五等瑞宝章受賞、昭和52年3月満82歳でこの世を去った。



賢治が盛岡高等農林時代に描いた南昌山の絵と短歌

